ふるさとづくり実践活動チーム　第３回会議

日時：平成 30 年 3 月 19 日（月）
16：30　～　18：00
場所：内閣府本府３階特別会議室

１　開会

２　宮腰総理大臣補佐官挨拶

３　ふるさとづくり実践活動 in 馬路・梼原の実施報告

４　意見交換

５　今後の進め方について

（１）次回のふるさとづくり実践活動について

（２）伴走型実践活動について

６　宮腰総理大臣補佐官挨拶

７　閉会

【説明資料】

資料１　ふるさとづくり実践活動 in 馬路・梼原　実施報告
資料２　次回開催候補地におけるふるさとづくりの取組について
資料３　ふるさとづくり実践活動の今後の進め方について

資料1

宮腰内閣総理大臣補佐官
ふるさとづくり実践活動in馬路・梼原
（高知県馬路村・梼原町）

実施報告

平成３０年３月１日（木）～２日（金）

参加者一覧

【内閣総理大臣補佐官】
・宮腰　光寛（みやこし　みつひろ）（内閣総理大臣補佐官（ふるさとづくりの推進及び
農林水産物の輸出振興担当））

【ふるさとづくり実践活動チーム委員】　７名

・今若　明（いまわか　あきら）（株式会社地域事業再生パートナーズ代表取締役）

・鯉渕　美穂（こいぶち　みほ）（株式会社CUE代表取締役社長）

・渋澤　健（しぶさわ　けん）（シブサワ・アンド・カンパニー株式会社代表取締役）

・武田　道仁（たけだ　みちと）（株式会社JTB中部交流文化部地域交流推進担当部長）

・殿村　美樹（とのむら　みき）（株式会社TMオフィス代表取締役）

・吉田　聡子（よしだ　さとこ）（株式会社桐光クリエイティブ代表取締役）

・吉弘　昌昭（よしひろ　まさあき）（農事組合法人ファームおだ顧問理事）

馬路村　視察先①　エコアス馬路村

１．事業所名：株式会社エコアス馬路村
・代表取締役：山﨑出（馬路村副村長）
・本社：高知県安芸郡馬路村馬路１４６４－３

２．事業内容
森林面積が村の９６％を占める馬路村では、平成11年に森の仕事まるごと販売計画を策定し、これまで分業であった「森を育てる」「森を集める」「森を加工する」「森を販売する」という事業を一貫したシステムとして捉えた計画をまとめ、翌平成12年にはこの新たな林業のシステム「森の仕事・資源をまるごと販売」を推進する中核として、第３セクターの株式会社「エコアス馬路村」を設立。
地元馬路村産のスギ間伐材を利用し、斬新な商品開発に取り組み、高知県出身デザイナーと連携して、木のバッグ（monacca）など、デザイン性の高い間伐材商品の開発に取組み、既存の間伐材製品との差別化を促進している。

３．視察のポイント
・木製品（木のバッグ（monacca）等）の加工
・森の仕事まるごと販売計画

馬路村　視察先①　エコアス馬路村

【説明の様子①】

【説明の様子②】

【木材スライサー】

【木のバッグ（monacca）】

馬路村　視察先②　馬路村農業協同組合（ゆずの森加工場）

１．事業所名：馬路村農業協同組合　ゆずの森加工場
・代表理事組合長：東谷望史
・本社：高知県安芸郡馬路村３８８８-４

２．事業内容
馬路村農業協同組合は昭和22年農業協同組合法施行(※)に伴い、産業組合から移行して、昭和23年6月15日に設立。

※農協法第1条／この法律は、農業者の協同組合の発達を促進することにより、農業生産力の増進及び農業者の経済的社会的地位の向上を図り、もって国民経済の発展に寄与することを目的とする

馬路村農協の特徴は、中山間地に適した作物として柚子の生産を奨励し、果汁の販売にはじまり、商品開発をしてゆず関連商品の多くを作るようになったほか、最近では化粧品工場を作り、化粧品の研究と製造も行っている。
ゆずの森加工場（4,475㎡）は、「ごっくん馬路村」などドリンク製造とゆず加工場の拠点工場となっている。

３．視察のポイント
・柚子の六次産業化
・農協加工施設

馬路村　視察先②　馬路村農業協同組合（ゆずの森加工場）

【配送作業の様子①】

【配送作業の様子②】

【施設説明の様子①】

【施設説明の様子②】

ふるさとづくり実践活動in馬路パネルディスカッション
（ゆずの森加工工場　研修室）

平成30年3月1日15:15～16:45

1．全体の流れ

1　開会
2　宮腰　光寛　内閣総理大臣補佐官　挨拶
3　山﨑　出　　馬路村副村長　挨拶
4　パネルディスカッション

～これからの「ふるさとづくり」を語る～

（コーディネータ）

殿村　美樹（とのむら　みき）　（株式会社TMオフィス代表取締役）

（パネラー）

上治　純平（かみじ　じゅんぺい）　（エコアス馬路村総務企画課長）
五味　裕貴（ごみ　ひろき）　（お山のらんでぶー（馬路村若者座談会）座長）
東谷　望史（とうたに　もちふみ）　（馬路村農業協同組合代表理事組合長）
山﨑　美穂（やまさき　みほ）　（魚梁瀬ふるさと劇団「杉ぼっくり」団長）
鯉渕　美穂（こいぶち　みほ）　（株式会社CUE代表取締役社長）
吉田　聡子（よしだ　さとこ）　（株式会社桐光クリエイティブ代表取締役）

5　閉会

ふるさとづくり実践活動in馬路

パネルディスカッション参加者一覧（馬路村パネラー）

No.	氏名	写真	性別	年齢	職業等	活動概要
1	かみじ　じゅんぺい 上治　純平		男	35	エコアス馬路村総務企画課長	馬路村生まれ。 Uターン者。平成12年に第3セクターとして設立された株式会社エコアス馬路村で、木製品（木のバッグmonacca等）の販売　や、森の仕事まるごと販売計画、山の現場の間伐作業等に携わっている。
2	ごみ　ひろき 五味　裕貴		男	25	お山のらんでぶー（馬路村若者座談会）座長	馬路村生まれ。 高校進学に伴い村外に転出したが、23歳のときにUターンし、馬路村森林組合に就職。 平成28年9月に「馬路村若者座談会（現：お山のらんでぶー）」を立ち上げ初代座長に就任。平成28年度は就業先、出身の垣根を越えて、村の暮らし、観光に関する議論を行い、平成29年度は村の「若者の村づくり活動支援事業補助金」を活用し、村の遊休住宅をリフォームし、「若者が集える場所づくり」を目指して活動中。
3	とうたに　もちふみ 東谷　望史		男	66	馬路村農業協同組合代表理事組合長	馬路村生まれ。 昭和48年に馬路村農業協同組合に就職。以来、ゆずの生産加工販売に携わる。 昭和56年からゆず加工品の販売をはじめ、平成15年には売上が29億円を超えるまでになったが、この加工品の開発、生産、販売に携わるとともに、観光地や温泉など村の情報をまるごと売り込む作戦で、馬路村ブランドの確立に中心的な役割を担ってきた。「ごっくん馬路村」の生みの親。
4	やまさき　みほ 山﨑　美穂		女	53	魚梁瀬ふるさと劇団「杉ぼっくり」団長	田野町生まれ。 結婚を機に馬路村民になる。 平成15年に地区有志が集まって結成した劇団「杉ぼっくり」の団長。地区の歴史を活かしたオリジナル演劇、村内イベントでのショー等を行い、村になくてはならない存在となる。最近では、魚梁瀬ダムでの加藤登紀子さんのコンサート（平成元年）を実現した中芸地域の青年団の奮闘ぶりを描いた演劇が好評を博した。

ふるさとづくり実践活動in馬路パネルディスカッション

【宮腰総理補佐官ご挨拶】

【会場の様子】

【コーディネータ・パネラーの皆さん】

【宮腰総理補佐官と関係者の皆さん】

ふるさとづくり実践活動in馬路　パネルディスカッションでの主の声

参加委員からの主な声

・どんな地域でもいいものがある
・価値に気づくこと、継続を大切にすること、受け継ぐ人たちをどうつくるか
・今ある資源を徹底的に掘り下げて、最大限活かす
・原動力は弱みと危機感
・今ある価値に気づく、誰を巻き込むか、継続可能な仕組みか
・今できることからまずやる
・その地域が選ばれる地域かどうか
・どう未来を仕組みとしてつくっていくか
・ピンチはチャンス、そのときに動くか動かないか
・これからの農業、農村は女性に好まれる地域をどうつくり上げていくか

地元からの主な声

・村全体を売るというコンセプトにより村民が自信を持った
・地域への誇りが次世代の若者定住、村の活性化につながる
・資源の活用を通じて、人材育成、後継者育成もやっていかなければいけない
・自分の思いを実現していくために誰を巻き込んでいくかが大事
・交流を一番重要視している
・村外出身者の視点での新たな魅力発見
・１０年先、取組を継続していく仕組みをつくっていかないと
・またいつか苦しい時代がきたときに復活できる人間を育てていかないといけない
・そこに住んでいる人が一番元気で明るくいられるのがふるさとづくりの基本
・自分たちができることをしていかなければいけない

梼原町　視察先①　集落活動センター四万川（しまがわSS）

１．事業所名：集落活動センター「四万川」
・運営主体：集落活動センター「四万川」推進委員会
・所在：高知県梼原町六丁１５２（四万川交流センター）

２．事業内容
地域を構成する１３集落を包括する組織として、明治の大合併以前の旧村を単位とした「四万川区」と称する住民自治組織により集落機能を維持。
地域内唯一の給油所の閉鎖に対して、地域住民一口１万円出資により、平成２６年度には、「株式会社　四万川」（住民出資）を設立し、経営をスタート。その後、集落活動センターを開所し、地域産品や農業用資材を販売するしまがわ市場を併設して住民の暮らしを支えている。

３．視察のポイント
・住民出資の株式会社による
　ガソリンスタンド運営等の経済活動

梼原町　視察先①　集落活動センター四万川（しまがわSS）

【説明の様子①】

【説明の様子②】

【ガソリンスタンド】

【物産コーナー】

梼原町　視察先②　集落活動センターゆすはら西（ジビエカー）　概要

１．事業所名：集落活動センターゆすはら西
・運営主体：集落活動センターゆすはら西推進委員会
・所在：高知県梼原町広野１６７－１（西区生涯学習館）

２．事業内容
各集落に代表者が置かれ、集落の道路や河川清掃といった奉仕活動や地域のお祭りごとといった行事等を行っており、これらの集落を包括する組織として、「西区」と称する住民自治組織が存在。
高齢化に伴う担い手不足や鳥獣被害の拡大が進んでおり、イノシシ・シカ等の有害鳥獣を捕獲し、ジビエカー（移動式解体処理車）を活用し、ジビエを安定供給できる体制、販路の確保を中心に取り組む。

３．視察のポイント
・ジビエカーを活用した、ジビエの解体・冷凍・加工・販売の仕組みと組織づくり

梼原町　視察先②　集落活動センターゆすはら西（ジビエカー）　概要

【説明の様子①】

【説明の様子②】

【ジビエカー①】

【ジビエカー②】

ふるさとづくり実践活動in梼原パネルディスカッション
（梼原町役場 総合庁舎 2階 大会議室1）

平成30年3月2日13:35～15:05

1．全体の流れ

1　開会

2　宮腰　光寛　内閣総理大臣補佐官　挨拶

3　久保　栄八　梼原町　副町長　挨拶

4　パネルディスカッション

～これからの「ふるさとづくり」を語る～

（コーディネータ）

武田　道仁（たけだ　みちと）　（株式会社JTB中部交流文化部地域交流推進担当部長）

（パネラー）

瀬戸口　登貴恵（せとぐち　ときえ）　（チームシルク代表）

空岡　則明（そらおか　のりあき）　（集落活動センター「四万川」代表、
集落活動センターゆすはら連絡協議会会長）

西山　璃美（にしやま　りみ）　（ゆすはら応援隊隊員）

矢野　豪佑（やの　ごうすけ）　（鷹取キムチの里づくり実行委員会会長、NPO法人「絆」理事長）

今若　明　（いまわか　あきら）　（株式会社地域事業再生パートナーズ代表取締役）

渋澤　健　（しぶさわ　けん）　（シブサワ・アンド・カンパニー株式会社代表取締役）

吉弘　昌昭（よしひろ　まさあき）　（農事組合法人ファームおだ顧問理事）

5　閉会

ふるさとづくり実践活動in梼原

パネルディスカッション参加者一覧（梼原町パネラー）

No.	氏名	写真	性別	年齢	職業等	活動概要
1	せとぐち　ときえ 瀬戸口　登貴恵		女	66	チームシルク代表	旧梼原村（現梼原町）生まれ。 梼原高校卒業後、愛知県名古屋市にて就職。結婚後、ご主人の転勤に伴って全国を転々とする。４０歳過ぎに帰郷、町内の雲の上のホテルに就職。 平成２８年３月２０日、集落活動センター「おちめん」の開所と同時に越知面区内の婦人６人で特産品開発グループ「チームシルク」を立ち上げ、代表となる。区内の廃校を活用し、週末喫茶店「カフェくわの実」をオープンし、地域内外の人々に交流の場を提供するとともに、平日にはパン・シフォンケーキの移動販売を行っている。
2	そらおか　のりあき 空岡　則明		男	65	集落活動センター「四万川」代表 集落活動センターゆすはら連絡協議会会長	旧梼原村（現梼原町）生まれ。 中学卒業後、愛媛県宇和島市にて就職。２０歳で高知市に転勤となり３１歳の時に帰郷、建設業に従事。 平成２４年、四万川区長に就任後、集落活動センター「四万川」の立ち上げに尽力。ガソリンスタンド・市場の経営や遊休農地の活用、特産延命茶の復活や東京からのインターンシップの受け入れ等を行っている。 町内の集落活動センターの連携組織である集落活動センターゆすはら連絡協議会の会長。
3	にしやま　りみ 西山　璃美		女	26	ゆすはら応援隊隊員	神奈川県相模原市生まれ。 父の転勤で全国を転々とし、８歳から梼原町の友好交流姉妹都市である兵庫県西宮で育つ。大学卒業後、高知県内に就職。一旦西宮市に帰るも、ゆすはら応援隊の募集があることを西宮市政ニュース通じて母から聞かされる。高知での楽しい思い出が背中を押し、応援隊に応募。平成２７年９月に着任。 現在、集落活動センター「四万川」担当としてガソリンスタンド業務や高知市内への物販出店などに活躍。西宮市コミュニティ放送局さくらＦＭでの梼原町広報番組「ハロー高知家ゆすはらジオ」の出演を通じて自らのふるさとに梼原をＰＲ。
4	やの　ごうすけ 矢野　豪佑		男	73	鷹取キムチの里づくり実行委員会会長 NPO法人「絆」理事長	旧梼原村（現梼原町）生まれ。 中学卒業後、旧窪川町の県立帰全農場で実習。帰郷後、農業、建設業に従事。 平成１４年の初瀬区長時代に韓国との交流を活かして、キムチづくりを通じた地域の活性化に取り組むため、鷹取キムチの里づくり実行委員会の立ち上げに尽力。現在、その会長も務める。なお、初瀬、松原地区で取り組む公共交通空白地有償運送ＮＰＯ法人絆の理事長も務める。

ふるさとづくり実践活動in椿原パネルディスカッション

【宮腰総理補佐官ご挨拶】

【会場の様子】

【コーディネータ・パネラーの皆さん】

【宮腰総理補佐官と関係者の皆さん】

ふるさとづくり実践活動in梼原　パネルディスカッションでの主の声

参加委員からの主な声

- 梼原町の特徴は人、特に女性
- 大人たちが前向きな将来の話をすることは大事
- ふるさととは自分がほっとするようなところではないか
- お金が回る仕組みは一人ではできなくて、ともにつくるもの
- 行政は価値をつくる土台を用意する、その上にのっている住民、民が民によってつくる
- この町は先進的なものにチャレンジする気持ちが強いと感じた
- 集落、コミュニティ、地域に対する思い、絆を強く感じた
- 行政と住民が一体になってやっていると感じた
- 危機、ピンチはチャンス、そのときに行動を起こすかどうか
- 農業は50年、100年と続ける形態にどう持っていくか
- 人を動かすということは危機をどう解決していくかに尽きる

地元からの主な声

- 区政が大きな役割を果たしていて行政と住民をつないでいる
- 挑戦、行動ができるような人材、梼原人の育成を目指している
- 何とかしたいという地域の思いがあった
- 地域の方がどこまで関わって、積極的に活動をしてくれるか
- 全員株主になることで自分の会社という意識を強く持っている
- 集落活動センターの存在意義が上がってきてみんなに関わってもらえる
- 地域の皆が一体となって取り組む中で自分はどんなことができるかという役割を探して活動している
- 人の温かさをとても魅力に感じている
- 小さな一つ一つの力が集まっていくことがとても大事
- 小さなグループでもいくつも集まったら地域は活性化できる

資料２

次回開催候補地におけるふるさとづくりの取組について

【鹿児島県十島村】

○　総面積　１０１．１４ｋ㎡

○　人　口　　７１３人（H30.2 末）

○　十島村は、屋久島と奄美大島の間に点在し、トカラ列島と呼ばれ、北から口之島、中之島、平島、諏訪瀬島、悪石島、小宝島、宝島の有人 7 島と、無人 5 島の合わせて 12 の島々で構成される。南北約 160km に及ぶ「南北に長い村」であり、民俗的にも琉球文化と大和文化の接点と言われ、今もなお独持の祭事・郷土芸能が受け継がれている。

○　県立自然公園にも指定され、自然生物学的にも温帯と亜熱帯の交差地域とされ、生物の中には、国や県指定の天然記念物も多く含まれている。

○　「NPO 法人トカラ・インターフェイス」（本部：中之島）は、島の魅力を活かして特産品の展示・宣伝販売、若者に対する定住支援、島外在住の島出身者との交流、農地開発支援等を行っている。

○　具体的には、援農体験交流事業として、都市部の若者等外部人材を呼び込み、農畜産業に関する滞在型の援農体験ボランティアをしてもらう「十島三島援農隊」の派遣を行い、農作業の人手不足の解消や高齢化による耕作放棄地・放置竹林の再生事業を実施するとともに、島民と交流してもらい、それが移住にも繋がっている。

【沖縄県南大東村・北大東村】

○　総面積　南大東村　３０．５３ｋ㎡、北大東島　１３．０９ｋ㎡

○　人　口　南大東村　１，２８０人、北大東島　５７７人（H30.2 末）

○　南大東村は、遠く海上から眺めると、あたかも水平線に一の字を書いたような扁平状に見える島。
　北大東村は、沖縄でもっとも早く朝日が昇る島で、北大東島と沖大東島の二つの島からなっている。

○　「南大東村豊年祭実行委員会」（村、商工会、感応協会、区等の長で構成（約 20 名））は、華やかな山車、御神輿が威勢良く担がれる祭り、豊年祭を開催している。この祭りでは、相撲甚句、沖縄相撲や江戸相撲が執り行われ、夜は舞台で三味線の披露や琉球民謡、伝統である大東太鼓の披露している。
（毎年 9 月に開催。約 500 名の参加者であり村最大の祭り）

○　「大東太鼓・碧会」（地元の方で構成（約 20 名））は、八丈島の伝統文化、八丈太鼓から受け継がれた大東太鼓を継承する団体。南大東村において、年末年始、島の行事や祝い事で披露したりや、本土のイベントでの披露等も行っている。
（離島フェア開催実行委員会（18 離島市町村、沖縄県等で構成）主催の「離島フェア」において過去に島おこし奨励賞受賞）

○　「南大東村体育協会」「北大東村体育協会」（地元の方で構成（約 20 名））は、南北親善競技大会（南北大東村対抗）等を移民約 110 年の歴史の中で約 50 年間開催している。南大東村と北大東村の交互で開催している。島同士の交流・婚活の場にもなっている。
（毎年 6 月に開催。平成 30 年度は南大東村で開催予定。）

ふるさとづくり実践活動の今後の進め方について

資料3

- 従来通り、**先進地での実践活動**は引き続き実施。先進的な取組を実施している地域に赴き、当該地域の事例を横展開する。
- あわせて、課題のある地域に対して、委員がアドバイス等を行い、地域の課題解決に向け、**伴走型の支援を行う実践活動**を新たに実施してはどうか。

先進地での実践活動

- 委員５～８名で実施
- 様々な現場を視察し、パネリストと幅広い意見交換を行う
- 各地の先進事例について全国へ横展開

➢ **課題**

- 限られた日程で様々な現場を視察するため、各取組に関して深い議論が困難
- 必ずしも委員の得意分野と地域のニーズがマッチしていない

“伴走型”実践活動

- 地域独自の魅力や価値の向上の取組を支援する民間専門家として、総理官邸のHP（ふるさとづくり実践活動チーム）で委員を紹介
- 地域独自の魅力や価値を向上させて地域の課題解決を図ろうとする地域に対して、ヒアリング等を行い、地域の現状、課題等を洗い出す（広域的な取組の広がりという観点から、都道府県にも参画してもらう）
- 対象地域が主体となって、地域課題等について、委員へ相談を行い、委員からアドバイスをもらう（特定の委員ばかりではなく、分野に応じて委員がアドバイス等を行う）
- 対象地域は委員からのアドバイス等を踏まえた取組を実施し、成果を報告する

⇒**まずは１地域において、活動を試行してはどうか。**

➢ **メリット**

- 継続的に地域に関わることで、深い議論を行うことができる
- 委員それぞれの得意分野を生かせる
- 対象地域が主体となって継続した実践活動を行うことで、具体的なふるさとづくりの「成果」が期待できる